



日本語教育基礎の実践

～履修生の多様性を学びに生かす取り組み～

グローバル・スタディーズ科目
コーディネーター
藤原由紀子

グローバル・スタディーズ科目（全学科目）

国際教育・協力センター(CIEC)、日本語教育センター、言語教育研究センター、国連・外交統括センター

カリキュラム・ポリシー

グローバル化する世界情勢や異文化への理解を深め、国際社会の発展に貢献できる世界市民を育成する。

日本語教育センター開講科目

- 日本語教育基礎
- 日本語教育基礎演習

➡ 今回報告する実践

日本語教育基礎 履修者の背景

履修者（正規学部生・正規学部留学生）の特徴

- 日本語教師志望者
- 教職課程
- 海外での交流（留学、国際社会貢献活動など）
- 国内での交流（日本語パートナー、地域ボランティアなど）



- ① 将来の職業として、教師を志望している
- ② 関わり方として「教える」ことを選ぶようとしている

日本語教育基礎 カリキュラム・ポリシーの具体化

本学の学生の履修背景を踏まえ

- グローバル化する日本社会の現状を知り、**コミュニティの多様性を支えること**としての日本語について考える
- **言語を学ぶこと、言語を教えることの意味**を考える



多文化共生社会における自己のあり方を考える

日本語教育の分野から貢献できる世界市民の育成

日本語教育基礎 主な授業活動とそのねらい

1

- 日本語教育概論（日本語教育の現状、日本語教育をめぐる社会の現状）

2

- 日本語を外国語として見る（日本語について自分ができることは何か考える）

3

- やさしい日本語について知る（国際化≠英語化、やさしい日本語の背景を知る、コミュニティーの多様性を支えることとしての日本語について考える）

4

- 調査報告（身近な学習者について知る）

5

- 日本語学習活動の企画・実施（学んだことの具体化に挑戦する）

6

- ふりかえり（多文化共生社会における自己のあり方を考える）

学習する

体験する

多様性を学びに取り入れるための工夫



グループ・ディスカッション

- 自身の言語学習や日本語学習者との関わりについての経験や意見を共有する
- 母語,学部,学年,海外経験などが多様になる形でグループを作成（定期的に変更）



グループ・ワーク

- 日本語学習者のための活動とともに考え、実践する
- 同じ興味関心をもつ学生同士がグループとなり、企画を考える



活動のふりかえり

- 毎回、講義や活動のふりかえりを記述する
- 互いのふりかえりをもとにした話し合いや掲示板を利用したコメントの交換

まとめと課題

「国際共修」を掲げた授業でなくても、同じ興味関心をもつ学生の中で、個々の学生がもつ多様性をいかし、学びにつなげていくことができる

「日本語教育基礎」≠日本語の教授法を学ぶ科目
多様性を支えることばとしての日本語 ⇒ ことばから多文化共生を考える

国際化の土壌となる

課題

- 教室内の多様性をいかに確保していくか
多様な言語文化的背景をもつ学生がいることにより、互いの学びが深まることが実感されているが、その多様さは各学期の履修者次第である
- 異文化や多文化共生の問題に興味関心がない学生をいかに引き込むか
“Mastery for Service” 日本語教育の分野から貢献できる世界市民の育成
⇒多文化共生のマインドをもって、自らの専門分野で活躍する人材を育てる
現在、関心を持っていない学生にいかに届けるか